

# 金山町 議会だより

第209号

令和2年5月14日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341

千漕ぎの渡り舟が  
濃霧の狭間を漂っている。  
三百年の幻想の歴史は、  
今も密やかに揺らめいている。

霧幻峽  
MUGENKYO

昨年約4,000人の観光客が訪れた霧幻峽。  
夏・朝と夕に渓谷の漂う川霧に包まれ、あまりにも幻想的な景色になることから名付けられた霧幻峽。  
日本の原風景を昔懐かしく感じられる霧幻峽。

〔3月定例会のあらまし 会期／3月6日～12日〕

	(ページ)
3月定例会 令和2年度当初予算を可決 .....	2～5
議案等審議結果一覧 .....	6
一般質問に7人登壇 .....	7～13

前年比3,420万円(1.1%)増

# 3万円を可決

# 3月 定例会



「全員賛成」で採決（起立）した令和2年度一般会計予算

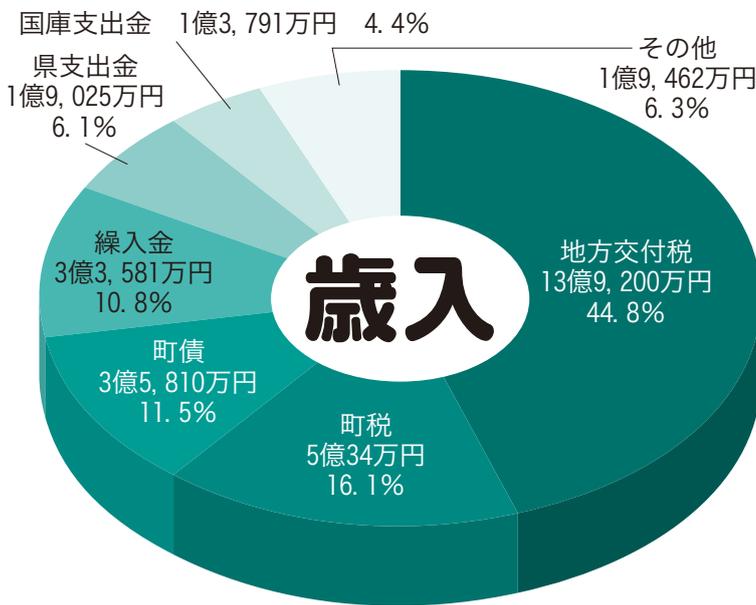
3月定例会は、3月6日から12日にかけて開催され、令和2年度当初予算など23議案と、報告1件が提案され原案どおり可決されました。令和2年度一般会計予算は、歳入歳出とも31億903万円で、前年度比3,420万円の増となっています。一般質問は7人の議員により2日間にわたり行なわれました。

## 一般会計の概要

令和2年度一般会計当初予算は31億903万円で、前年度と比較して3420万円（1.1%増）となっています。

### 固定資産税・地方交付税の微増 基金取り崩しの大幅増

前年度と比べ、町税は、全体で5億34万円（2.6%増）となりました。大規模償却資産の設備投資の伸びがあり増額が見込まれるためです。地方交付税は、国の動向を踏まえ増額していますが、交付税措置のある公債費が増えたために、13億9200万円（3.1%増）。町債（町の借金）は、投資的事業の抑制により3億5810万円（8.5%減）となりました。財源補てん

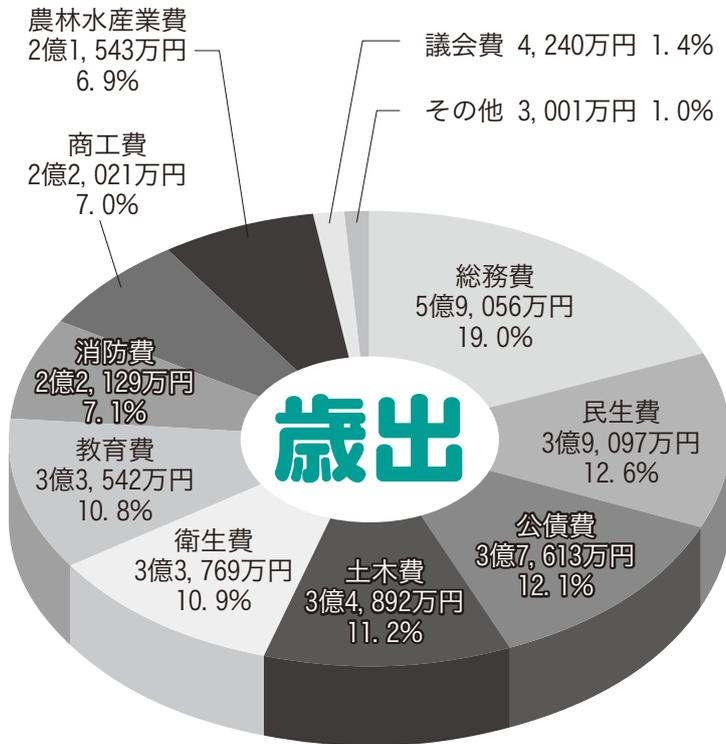
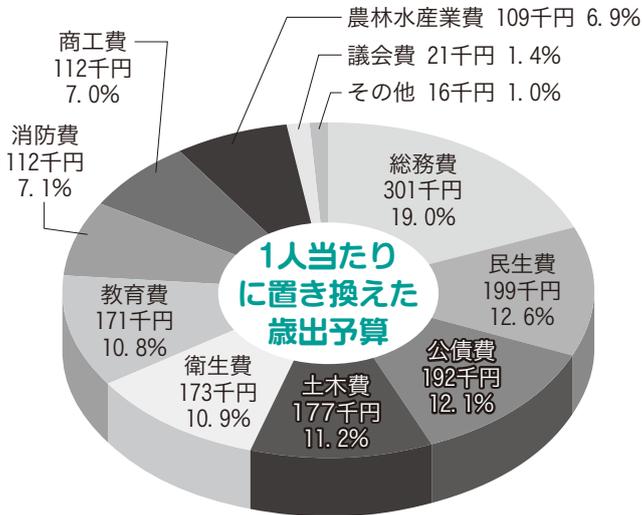


### 投資的事業 減少 防災無線デジタル化 川口駅前線改良

- ・ 歳出のうち、主な投資的事業は次のとおりです。
  - ・ 川口駅前線改良事業（無散水消雪設備）1億208万円
  - ・ 防災無線デジタル化
- ・ 的な基金の取り崩しは大幅に増え、3億3581万円（12.9%増）です。
- ・ 業8293万円
- ・ 渡し舟観光施設整備事業（霧幻峡の渡し）4532万円
- ・ (主な投資的事業参照) その他としては
  - ・ 道路除雪事業 1億1068万円
  - ・ 地域一体型ふるさと教育事業8300万円
  - ・ 乗合タクシー運行事業 3275万円等です。

# 町民1人当たり 1,583千円の予算 (一般会計)

# 令和2年度一般会計 31億90



令和2年4月1日現在  
(外国人含む) 1,096人



## 主な投資的事業

事業名	事業費
町道川口駅前線改良事業(無散水消雪設備)	1億208万円
防災無線デジタル化改修事業	8,293万円
渡し舟観光施設整備事業(霧幻峡の渡し)	4,532万円
林道大川入線整備事業	2,700万円
玉縄城跡遊歩道整備事業	2,000万円
除雪機械購入事業(町道除雪車)	1,700万円
ごみ処理車更新事業	1,300万円

## 令和2年度特別会計予算(当初)

特別会計名	平成31年度当初予算	前年度比増減額
国民健康保険事業(医療費等)	3億747万円	△1,169万円
国民健康保険施設(診療所運営)	1億5,527万円	336万円
介護保険	6億147万円	△677万円
後期高齢者医療	5,216万円	583万円
簡易水道事業	3億577万円	6,279万円
農業集落排水事業(田沢地区農業集落排水事業)	397万円	2万円
特定地域生活排水処理事業(合併処理浄化槽)	1億2,753万円	41万円
特定環境保全公共下水道事業(川口地区公共下水道事業)	3,957万円	△5万円

**財源補てこの基金の残額**

※令和元年度末(当初予算作成時 見込み)

- ① 財政調整基金 11億37万円
- ② 公共施設整備基金 6億846万円
- ③ 電源立地地域対策交付金維持補修基金 2億24万円

# 当初予算（議案審議）

## 予算額は伸びている 基金があり

財政運営は大丈夫

平成29年度から予算規模伸び続けているが、財政運営は大丈夫なのか。

総務課長 数年前から基金額が増えており、約30億円近くの基金があります。大規模な事業もなく少額の予算の伸びは大丈夫であると考えます。

## 基金からの繰入が多いのでは

町としてやらなければならぬ事業がある

基金からの繰入が多いと感じるが。

総務課長 総額で3億3000万円と非常に大きな金額です。町としてやらなければならぬ事業もありますので、基金を取り崩しながら進めていきたいと考えています。

## 地方交付税増額見込み 間違った額ではないのか。

地方交付税前年比4200万円増で見込んでいますが、算定に誤りはないのか。

総務課長 国全体で2・5%の上昇となっており、実績では毎年見込み額より大きい額が入ってきています。今年度も過大に見積ることがないよう、厳密に精査しております。

## 延滞金の額について

分納徴収している

諸収入の中の延滞金が昨年度は1万円、今回151万2千円と大幅に増額になったが、延滞金の総額は幾らなのか。また、徴収についての債権の保全の方法は。

住民課長 現在の残高は、2728万9989円です。延滞金については、債権の保全というような税法上の規定があ

りません。町では、納税者と協議して、分納誓約書を取り交しながら分納誓約を守っていただいています。

## グラウンド・ゴルフ 場使用料について

利用者増を図った

当初見込んでいた使用料より少ないのは。

教育次長 今年度オープンということもあり、収入よりも当面は妖精の里大会など、町外からの利用者増を図るため、使用料の減免を行いました。



町外参加者が多いG・G大会

## 自治会活動保険の内容は すべての行政区分 町が負担します

自治会活動保険料32万円について伺います。

総務課長 今まで各行政区が掛けていた活動保険と同様の保険を町が契約者となり負担するものです。各行政区の負担軽減と現在、未加入地区の活動等にも適用になる保険です。

## 只見線活性化事業について

只見線再開通を  
見据えた事業

只見線活性化事業の委託内容は。

復興観光課長 只見線再開通を見据えた事業です。今年度赤カボチャの加工品を開発・試作し、それらをお土産として販売するための、特産品の新商品開発、販売戦略などの事業となります。

## 老人福祉費緊急通報 システムについて

人感センサーによる  
見守りをしています

昨今、一人暮らしの方のご自宅で亡くなって発見されるという事例が多くなっている。本人が具合が悪くなった時、どのように通報されるのか。

## 害虫駆除の 補助について

業者による駆除が対象

害虫駆除の補助内容は。

住民課長 このシステムは人感センサーと呼ばれるもので、人の動きをセンサーで察知し、仮に人の動きが無いと感知した場合、本人に問合せがきます。問い合わせに回答がない場合、近所の協力員に連絡が行き、次の対応を行います。このような体制で見守りを行っています。

## 観光タクシー運行事業 予算の上限について

過去の実績により  
予算計上した

過去に試験運行され、紅葉シーズン前に予算がなくなり打ち切りになったことがあった。今回は150万円が上限設定か。

復興観光課長 平成28年度に実施した事業の実績を基に、1年間実施するものとした額を積算し予算計上したものです。

外国人観光客が多く来ている。これからの町の交流人口の拡大には必要な事業であり、予算の上限の撤廃も必要ではないか。

副町長 事業の進捗を見ながら、非常に効果があると思われた場合には、補正予算も見据えながら検討していきます。

## 妖精美術館について

集客の取組をしていく

**問** 妖精美術館の入館者の見込みとイベント内容について。

**答** 復興観光課長 2500人程度の入場を見込んでいます。また、企画展を予定しており、多くの方に来ていただける取組を行ってまいります。

## 玉縄城跡は町観光の目玉になるのでは

JRR只見線撮影ポイントになる

**問** 遊歩道策定のイメージを教えてください。

**答** 教育次長 入口は高校校門脇からで、約600m程登ると2の平にぶつかります。そこまで階段、スロープで遊歩道として策定し、さらに、案内看板の設置、撮影ポイント箇所支障になる枝の伐採等を行います。城跡からは、川口駅周辺、本名のJR第6鉄橋が見渡せ、只見線の絶景撮影ポイントとなります。車で来た方の駐車場は、旧

保育所跡の空き地を考慮しています。

**問** 城跡の文化的な調査を含めての遊歩道策定なのか。

**答** 教育次長 玉縄城跡は山城跡として町指定重要文化財になっていきます。文化財調査は計画していませんが、看板等で歴史の価値があることをお示ししたいと考えます。



山城跡からの眺め（川口駅周辺）

## 川口高校地域みらい留学事業とは

地域に貢献できる人材育成を目指す

**問** この事業は、他の学校と差別化し「ここでしかできない体験がある」ことを魅力にすることだと考えます。川口高校が、他校と比較して魅力

的だと思われるには何が必要ですか。

**答** 教育次長 今年度から地方創生として取組む新たな事業です。まず、高校の存続を大前提に、生徒が地域の課題解決や

## 特別会計

## （議案審議）

### 介護保険料の滞納対策は

周知徹底を図る

**問** 介護保険料の普通徴収保険料に滞納が出やすいのでは。町としての対策は。

**答** 住民課長 年度の途中で65歳になられた方は普通徴収により介護保険料をいただくこととなります。そのため、うっかり忘れの方が多い状況です。介護保険料を納める年齢になったことを周知したい。



地域貢献できる人材育成を目指し、また、将来、町で活躍してもらいたいとの思いから実施する事業です。具体的な内容は川口高校と共同で考え取組んでいくこととしています。

### 公共下水道事業川口処理区の加入について

未加入世帯へ折衝していく

**問** 川口処理区の一帯世帯の加入戸数は。当初の事業計画では80戸（現在69戸）見込んでいたのでは。加入が進まない原因は。

**答** 建設課長 現在一般世帯で47戸使用していただいております。個人で単独浄化槽、合併処理浄化槽を設置されている戸数かなりあります。高齢世帯や一人世帯の方もおり、町の施設になかなか接続していただけないのが現状です。今後も個人と折衝しながら加入率アップに努めてまいります。

## 2月10日 第1回臨時会

臨時会では、一般会計の補正予算が審議され可決されました。記録的な暖冬による緊急経済対策事業に充てるもので、補正予算の内容は、妖精の里商品券の発行時期の1カ月前倒しと発行額の増額、早期の町道修繕に対応するための道路維持費の増額予算です。

## 人事

### ◆固定資産評価審査委員会委員

固定資産評価審査委員会委員に横田正男氏（横田・68歳）を選任することに同意しました。任期は3月25日から3年間です。

## 選挙

### ◆選挙管理委員

菅家哲夫（本名・71歳）  
山口徳行（中川・70歳）  
栗城英雄（山入・64歳）  
若林照枝（川口・72歳）  
任期は4月11日から4年間です

### ◆選挙管理委員補充員

小林一郎（横田・70歳）  
角田二郎（玉梨・72歳）  
角田浩（三更・77歳）  
菅家雄次（大塩・69歳）



## ■ 議案等審議結果一覧

※議長は、採決に加わりません（賛否が同数の場合には議長が採決します）

※賛成「○」 反対「×」

件名	議決結果	安藤雅朗	坂内讓	加藤夕子	栗城康太郎	横田正敏	奥高伸	黒川廣志
<b>■ 第1回臨時会 令和2年2月10日開催</b>								
令和元年度金山町一般会計補正予算（第4号）	可決	○	○	○	○	○	○	○
<b>■ 第2回定例会（3月定例会） 令和2年3月開催</b>								
令和2年度金山町一般会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町国民健康保険特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町簡易水道事業特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町農業集落排水事業特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町介護保険特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町特定地域生活排水処理事業特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町後期高齢者医療特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度金山町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度金山町一般会計補正予算（第5号）	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度金山町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度金山町簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度金山町介護保険特別会計補正予算（第4号）	可決	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度金山町特定地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第4号）	可決	○	○	○	○	○	○	○
金山町保健師等養成奨学金資金貸与条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	○	○
金山町若者定住促進条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○
特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○
職員の給与に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○
金山町交通教育専門員設置条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○
金山町定住促進住宅条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○
金山町水道事業給水条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○
辺地総合整備計画の策定について	可決	○	○	○	○	○	○	○
金山町固定資産評価審査委員会委員の選任に関する同意について	可決	無記名投票により採決 (賛成7票・反対0票)						
<b>■ 報告（3月定例会で報告されました）</b>								
専決処分に関する報告について（町道川口駅前線道路改良工事の変更契約）								

## 栗城康太郎議員の 一般質問



# 交流人口拡大に向けた受入体制の充実と産業・経済の維持振興について

## 分野・目的に応じた受け入れ体制を

**問** 人口減少・少子高齢化対策と只見線利活用による地域の活力維持と経済の振興を図るための施策の一つとして、交流人口を拡大することが重要であり、そのためには受け入れの環境整備も急ぐ必要があると思います。問① 交流人口の受け入れ体制充実は。

**答** 町長 交流人口とは、観光客はもとより、定住・二地域居住で都市部と地方の両方に生活の拠点を持つ方、友好都市との交流等が考えられま

す。急速な人口減少が進む中、金山町においても、こうした交流人口について、それぞれの分野・目的に応じた受入体制や対策を講じていくことが重要であります。例えば、観光では、JR只見線や豊かな温泉資源、大塩炭酸泉、霧幻峡の渡

しといった、金山町ならではの地域資源を最大限に生かした受入体制の強化、定住・二地域居住では、農泊・農業体験、空き家住宅の情報提供のほか、都市圏への積極的なPR等考えられます。こうした分野・目的毎の取組を深めながらも、各施策が有機的に結び付き、町全体の交流人口の拡大

大、活性化が図れるよう、縦・横のつながりを意識した取組を進めてまいりたいと考えております。問② 交流人口の拡大を町の経済振興につなげるための施策は。

**答** 町長 訪れた人が町内で消費すること、つまりお金を使っていたことが大事であると考えております。その消費行動として考えられるのは、特産品やお土産の購入、飲食施設での食事や宿泊・観光施設の利用などです。当町での滞在時間がより長くなるよう、町内での消費が増えるよう、各産品や関係施設の磨き上げを行いながら、魅力あるコンテンツづくりを関係者と一緒に検討してまいりたいと思います。

# 少子化対策と『学びの18年』について

## 将来を担う人材育成を目指す

**問** 過疎と超少子・超高齢化社会に対応することを主眼として策定された『第4次金山町振興計画』も間もなく最終年度を迎えますが、当町の高齢化率は59・3%に達し、超少子・高齢化に伴う人口減少が進行しています。問① 『金山町少子化対策推進条例』第2条(定義)の前提条件は。

**答** 町長 平成25年6月定例会における町長の提案理由説明の中で、「我が町における大きな問題は少子化であり、全町挙げて少子化対策を、まずは子育て支援に力を注ぐべき」との考えを述べました。その後、本条例が制定され、地域一体型ふるさと教育事業に取り組んでいることから、この

発言が本条例第2条の前提になっております。問② 『奥会津金山 学びの18年』が目指す人間像は。

**答** 教育長 平成26年度から始まった「地域一体型ふるさと教育事業」のキャッチフレーズであります。本事業は、保護者の負担軽減や高校支援、また、学校教育ではなかなかできない教育事業等

を実施し、将来を担う人材の育成を目指すものです。「奥会津 学びの18年」では、目指す人間像として取り上げてはおりませんが、それぞれの発達段階に応じてキャッチフレーズを掲げています。最終的には、教育目標である「郷土を担う心豊かな人間の育成」の実現につながっていくものと捉えております。



奥会津ビューポイント かねやまふれあい広場  
多くの訪日外国人観光客が訪れています



JR只見線での約40年間の運行お疲れさまでした  
解体を待つキハ40系



## 加藤夕子議員の 一般質問

# 通行止め解除について

## 県道は早期の再開通を要望していく

問① 現在、三更〜宮下間、山入〜布沢間、上横田〜田沢間及び田沢〜滝ダム間が通行止めとなっておりませんが、今年も雪も少なく例年より早く通行止め解除が期待されます。各線の解除時期及び取組について伺います。

答 町長 道路の管理主体が福島県と金山町に分かれます。県道小栗山・宮下線、県道布沢・横田

線は福島県が管理主体となりますので、県に問い合わせしたところ、現在、倒木の除去、落石箇所を確認を進めているとのことで、早い段階で再開通出来るよう進めているとの回答でした。町としても、早期に再開通出来るようにしっかりと要望してまいります。町道田沢・上横田線、町道小見線は、町が管理主体に

なります。町道田沢・上横田線の通行止めは、積雪によることもあり、法面からの落石、路肩の決壊があり、安全性を考慮し、降雪前から通行止めとしています。現在、安全確保のため、調査を進めています。多額の経費がかかる見込みです。改修計画が出来ましたら、補助事業で要望をして改修したいと考え

ております。町道小見線については、除雪路線ではないので除雪は実施していません。ご理解をお願いします。

問② 町道田沢・上横田線は町民だけが利用するのではなく、町が実施している観光情報発信事業でも秋の紅葉がきれいなところで宣伝しており、誰もが安心して通れるような道づくりを目指して

# 観光資源としての只見線車両について

## キハ40系の譲受の考えはない

問① 3月13日で120系へ置き換えになる現キハ40系ですが、JRから譲渡の話が出ていることをご承知のことと思います。県も含め、沿線全てをまとめる必要はありませんが、町としてどう捉えているか伺います。

答 町長 3月13日もって運行終了となるJR只見線のキハ40系車両について、JR東日本から、沿線自治体等で展示用に譲り受けたいという要望があれば検討する旨の照会がございました。その後、同社から、車両内にアスベストが含まれていることから、労働安全衛生法の規定により、譲渡はできないとの回答がございました。

ただきたい。

答 町長 只見線については、町の大きな観光資源であることは間違いございませんが、キハ40系の譲受については沿線自治体との協議の中でまだ、議題には上がっていません。今回、議会でキハ40系の取り扱いについての質問がでたということは、県に伝えたいと思っています。

ただきたい。

答 町長 只見線については、町の大きな観光資源であることは間違いございませんが、キハ40系の譲受については沿線自治体との協議の中でまだ、議題には上がっていません。今回、議会でキハ40系の取り扱いについての質問がでたということは、県に伝えたいと思っています。



安全な交互通行を確保するための  
仮設信号機

# 産業振興は林業で

## 長期的な展望を持ちながら取り組んでいく

**問** 若者定住がなければ、少子高齢化は一層進み、町は衰退してしまう。今

この山を生かさないうで町の振興、産業興しはないと考える。

まで町は地元の資源を生かした産業づくり、若者定住策を繰返し述べてきた。しかし、残念ながら若者が職として付けるような地元の資源を生かした産業は町には生まれてこなかった。町の面積の92%は森林、山だ。地元の資源はたくさんある。

**答** 町長 頻発する自然災害、とりわけ豪雨災害は、地球温暖化の影響があるとされ、その防止と被害の削減には、森林整備が重要であると考えられます。また、単に素材としての価値に留まらず、公益的機能として災害防止、国土保全、水源涵養

等、森林の持つ様々な多面的機能が、今では社会的に注目されています。当町の広大な森林は、様々な面で重要な資源であり、大きな可能性があるものと考えております。しかしながら、森林の関係従事者を育て、一つの産業として林業が成り立つまでには、長期的な視野に立たなければなりません。一方で、産業として成

り立つには収益を上げられるかが非常に重要です。現在は、木材価格が低迷しており、さらに、当町には木質チップ製造や流通を含めて森林資源を有効に活用する体制は整っていません。こうしたことから、現在のところ、当町単独での産業づくりは困難であると言わざるを得ませんが、近隣町村はもとより、会津17市町村

と連携した取組を積み重ねることで、未来が見えてくるのではないかと考えています。長期的な展望を持ちながら、しっかりと林業による産業振興に取り組んでまいります。また、森林整備のための間伐や既設林道の維持管理を行いながら、環境整備としての除間伐等についても、これまで以上に実施してまいりたいと考えております。

# 県道布沢・横田線の改良促進を

## 今後も県に要望していく

**問** 今年のような暖冬でも県道布沢・横田線は冬期間通行止めとなり、横田地域では生活の主要道路は国道252号だけになる。平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨災害時にはその国道が寸断され、横田地域は孤立の危機に晒され県道布沢・

横田線が地域の生活、緊急車両等の生命线となった。県道布沢・横田線の改良は町としても地域住民の生活を守る安全・安心の町づくりにおいて最も、重要な施策の一つになると考えるが。

**答** 町長 町として重要路線であると認識してお

り、只見・金山・昭和県道改修促進期成同盟会と町からの重点要望で毎年、福島県へ改修を要望しています。県の回答では、車両のすれ違いが困難な区間について、安全に通行できるように現道対策を実施するとの回答であり、側溝の蓋がけや仮設信号機（狭い道路が続く区間に片側通行させるための信号機）設置などの対策を実施しています。町としては、重要路線との認識のもと、今後も、大規模改修を要望してまいりますので、ご理解をお願いします。



## 横田正敏議員の 一般質問

# 健康長寿のまちづくりの推進を

## 健康長寿をメインテーマに捉え、取り組んでいきたい

問① 健康長寿を目指して、現在までどのような取り組みができたか、その結果と実態は。

答 町長 病気予防対策として、運動教室や料理教室、高齢者向けサロンを始め、県立宮下病院の協力による健康講座を実施するなど、様々な取組を行っております。一方で、各行事の参加者が限

定されてしまい、多くの町民の参加にまでは至っていないことから、今後は、より多くの町民に参加していただけるよう、広報等にも一層力を入れています。

や疾病の早期発見、早期治療のための医療体制の充実が重要である。歯科診療を含め、現在の医療体制の課題と今後の取組について伺う。

問② 町民の「自分の健康は自分で守る」という意識が大切ではないか。

答 町長 健康長寿実現のためには、医療体制の充実が欠かせません。しかしながら、町の国保診療所の体制は決して十分と言えないものではなく、

常勤医師1名の負担は相当重い現状にあると認識しております。地域包括支援システムの充実を図る観点からも、また、国

で今後の重点施策に挙げている、高齢者の心身の衰弱を抑止する取組を進めていくためにも、医療の充実が重大で喫緊の課題です。現在は、へき地医療支援機構を通じて、

県から医師を派遣いただき、診療体制の充実を図っておりますが、県内におけるへき地医療の現状

は厳しさを増しており、予断を許さない状況です。歯科診療については、状況は好転してないのが実情です。町外の歯科診療施設をかかりつけ医としていらっしゃる方が多く、地元には歯科医がいながら他市町村に行ってしまう状況が続いておりますが、今後も、診療所における歯周病検診を実施するなど、状況改善に向けた情報収集や施策の検討を進めてまいりたいと考えております。

問③ 健康長寿を実現させるためには、予防医療

は、健康長寿をメインテーマに捉え、取り組んでいきたい

の観点から見た町民生活について、私の考えを申し上げます。町民、特に高齢者における健康長寿の取組は一層力を入れて進めていかなければならないというのが率直な思いです。「健全な精神は健全な身体に宿る」という言葉のとおり、心と体、そして人と人との結び付きは、それぞれが深く関係し合うものであり、これらの課題への対策は総合的に検討されるべきものと考えます。町ではこれまで、保健事業実施計画、介護保険事業計画、食育推進計画といった計画を策定し、取組を進めてまいりましたが、今後は、健康長寿をメインテーマに据え、地域コミュニティの在り方等も模索しながら、これら計画の有機的・効果的な取組を進めてまいりたいと考えております。

答 町長 ご指摘の4つの視点から見た町民生活について、私の考えを申し上げます。町民、特に高齢者における健康長寿の取組は一層力を入れて進めていかなければならないというのが率直な思いです。「健全な精神は健全な身体に宿る」という言葉のとおり、心と体、そして人と人との結び付きは、それぞれが深く関係し合うものであり、これらの課題への対策は総合的に検討されるべきものと考えます。町ではこれまで、保健事業実施計画、介護保険事業計画、食育推進計画といった計画を策定し、取組を進めてまいりましたが、今後は、健康長寿をメインテーマに据え、地域コミュニティの在り方等も模索しながら、これら計画の有機的・効果的な取組を進めてまいりたいと考えております。



町民福祉の向上を目指した健康長寿の推進  
健康な高齢者が大勢の敬老会



# ヒメマスを活用した町おこしを

## 漁獲量拡大に向け検討していく

**問** 東電福島第一原発事故で禁漁されていた沼沢湖のヒメマス漁が解禁され、五年が経過する。「沼沢湖ヒメマス活用による地域活性化を考える会」の事業実績と今後の取組について伺う。

**問①** ヒメマスの保護、増殖の調査研究・環境整備、ヒメマスを活用した地域活性化を目的としているが、総括は。

**答** 町長 「沼沢湖のヒメマスを考える会」は、平成28年9月に設置され、金山町を含め、関係6団体で構成されており、会としての予算は持たず、各団体がそれぞれ予算化し事業を実施しておりますが、事業実施にあたっては、関係者で情報交換を行いながら、事業がより良いものとなるよう取り組んでおります。これまで、実施した

事業としては、宮下土木事務所による前ノ沢の遊歩道整備や魚道の設置、内水面試験場による産卵床の状況調査のほか、各団体との連携事業として、産卵床整備や草刈り作業、支障木の伐採作業等の環境整備を実施してきました。

毎年開催される総会で、意見交換や連携事業を通して、各団体の関心が

高まり、連携事業の参加者も増えていることは、大変良かったと思っております。

**問②** 町おこしに向け漁獲量の拡大が課題だ。今後の取組は。

**答** 町長 ヒメマスの遡上環境を整え、自然ふ化を増やすことで、保護増殖を図る必要があることから、町としても必要な支援を行っていきたく

考えています。また、特産品としてヒメマスをより広めるためには、安定した漁獲量が必要となります。現在は、釣り客からヒメマスを購入し供給している状況ですが、需要と供給の見通しが重要であることから、関係者との連携を密に情報収集を図りながら、漁獲量拡大に向け、より良い方策を検討してまいります。

見線沿線の景観整備、地域特産品を生かした新商品開発、金山町及び只見線の魅力をPRする動画作成のほか、次年度にかけて、霧幻峡の渡し利用者のための観光トイレ及び栈橋の整備、町内各所に多言語対応の観光案内板の設置を行うこととしております。

また、次年度から新たに、JR只見線の利用者を対象に、町内に点在する観光施設の周遊を促す観光タクシーの運行を始めることともに、玉縄城跡を新たなビューポイントとして整備することを予定しており、観光客が町内に滞在する時間を増やし、地域消費が活性化するように取り組んでまいります。

# 只見柳津県立自然公園の越後三山只見国定公園への編入について 県で公園計画の見直しを進めている

**問** 県は令和3年度編入を目指し環境庁と協議中と聞く。

**問①** 国定公園との一体管理の調査・検討・協議の進捗は。

**答** 町長 県によりまずと、地元関係者へのヒアリング調査や、沼沢湖周辺・只見川沿岸区域等の現地調査を経て、現在、調査結果の取りまとめ段

階に入っており、今月には地元説明会を開催し、引き続き、公園計画の見直しを進めるとのことです。

**問②** 景観の保全、インバウンド対策、情報発信、二次交通の整備、交流人口の拡大で県全体の振興を目的としているが、町の取組は。

**答** 町長 今年度は、只

また、次年度から新たに、JR只見線の利用者を対象に、町内に点在する観光施設の周遊を促す観光タクシーの運行を始めることとともに、玉縄城跡を新たなビューポイントとして整備することを予定しており、観光客が町内に滞在する時間を増やし、地域消費が活性化するように取り組んでまいります。



昨年10月に復活したヒメマス寿司



## 坂内議員の 一般質問

# 空き家対策の現状での取組と、今後の対応策について

## 補助内容の拡充と有効活用を図る

**問** 少子高齢化・人口減少の当町において、空き家や使用頻度の低い公共施設が急増しています。今まで以上に、地域の課題に踏み込んで行かなければならなくなっていると思えますが。

**答** 町長 現在、空き家バンクの登録者数とその地区は、き家等の数についてです

が、町が実施している空き家等実態調査によりますと、令和元年10月末時点で284戸が存在することを確認しています。また、空き家バンク登録件数ですが、令和2年3月5日現在、27戸が登録済みとなっており、うち成約済みが8戸、交渉中が2戸という状況です。地区別では、成約済みの

ものを除くと、旧横田村エリアが10戸、旧川口村エリアが5戸、旧沼沢村エリアが4戸となっております。また、空き家バンク登録件数ですが、令和2年3月5日現在、27戸が登録済みとなっており、うち成約済みが8戸、交渉中が2戸という状況です。地区別では、成約済みの

ますが、その制度について、来年度から補助内容を拡充いたします。具体的には、空き家の改修補助について、「家主不在となつて1年以上経過した物件に限る」という要件を撤廃し、所有のみならず賃貸借の場合にも適用させるとともに、補助率及び補助金額を増やしたほか、改修を伴わない空き家を

取得した場合についても補助を行っていく予定です。今後は更に、町内の空き家を減らし、有効活用を図っていく必要があることから、空き家等対策協議会や若者定住促進懇談会をはじめとした様々な機会において、町民の意見を伺いながら、効果的な施策の検討を進めてまいります。

# 新型コロナウイルス感染症の流行による町内の対応について 国・県の支援事業の情報収集に努める

**問** ① 三学期中の急な全校休業による緊急対応。そのことによる教育現場への影響と対策は。

**答** 町長 教育現場の対応としては、毎日の学習を計画的に進め、学力の低下を少しでもなくすように指導する。

家庭での生活について  
① 不要不急の外出はしな

い。② 規則正しい生活をするよう指導する。③ 家庭で子供を見る親のいない場合は、放課後子供クラブで朝8時30分から夕方まで過ごせるようになる。

その他の対策として、  
① 臨時休業中に2回家庭訪問をする。② 週2回電話連絡で子供の状況を確かめる。等の対策を講

じ、子供たちや保護者の不安に応えたいと考えております。

町内においても、学校の臨時休業や各種会議、会合等の自粛により、事業者への経済的打撃は大きいものと推察しています。今後も、感染症拡大の状況を注視するとともに、町が取り組むべき必要な支援について、国や県が打ち出す対策等の情報収集に努めながら、判断してまいります。



町内の空き家の数約280戸  
有効利用が待たれる空き家対策

# 農業振興について

## 各種支援を行っている

### 安藤雅朗議員の 一般質問



令和2年度辞令交付を受けた  
6名(4月1日付1名採用)の地域おこし協力隊

**問** 当町の基幹産業である農業においては、農業者の高齢化や後継者不足により、農業従事者が大幅に減少し、遊休農地や荒廃農地の増加が大きな問題となっています。町の発展には農業者が元気でなければいけないと考えますが、今後の町農業振興策について、考えを伺います。

**問①** 新規就農者を受け

入れるための支援策は。  
**答** 町長 まず、就農希望者の思いや考えを伺う、話し合いの場が重要と考えています。町では、産業課が窓口となり、当町の農業の実状を見ていただくとともに、必要な情報提供を行っています。

受入体制としては、新規就農者に対して、農業関係機関で組織する「担い手育成総合支援協議会」が、就農計画の作成支援を行うほか、定期的に農業者を訪問して、営農指導と情報交換を行っています。また、支援制度につ

いては、国の次世代人材投資事業により、生活が安定するまでの間、年間150万円を受給できる経営開始型の支援があります。この事業を活用出来ない場合は、町制度としての新規就農者支援事業により、国と同額の支援を

行うこととしております。  
**問②** 農業振興策について伺います。  
**答** 町長 農業機械の購入費の補助や、生産団体を通じた肥料等の購入費補助のほか、農地の集積に対する支援も行っています。

## 地域おこし協力隊について

### 定住につながる支援を続けていく

**問** 都市部から1年ないし3年の任期で移住し、その地域の課題解決、地域振興のために従事する、地域おこし協力隊制度が始まって昨年で10年を迎えました。総務省の発表では、令和6年度までに全国に8000名まで増やす目標を立てています。当町の地域おこし協力隊制度への考えを伺います。

**問①** 現役隊員へのフォロー体制は整っているか。  
**答** 町長 町ではこれまで12名の隊員を受け入れ、現役5名を含む9名が現在、町内に在任しています。復興観光課内に担当職員を配置するとともに、受入団体との連絡調整を図りながら、隊員の活動や日常生活に関する支援を行っています。また、勤務内容については、定期的に活動報告の提出を受けており、実態の把握はできているものと考えております。

**問②** これからの地域おこし協力隊に対する目的と課題は何ですか。  
**答** 町長 今後も、産業振興や集落活動など、地域の維持・活性化を担う貴重な人材として、地域おこし協力隊の受け入れを行い、隊員が地域の環境に適応し、活動終了後の町内定住につながるよう、支援を続けてまいりたいと考えております。

けられています。隊員の採用に当たっては、応募者及び受入団体の双方に活動目的及び内容の共通認識を図るよう、慎重な事前調整を行うとともに、採用後に隊員や受入団体を取り巻く状況が変化し、活動を継続する上で新たな課題が生じることも想定し、受入先との連携を図りつつ、隊員とのコミュニケーション強化に努めていきたいと考えております。



## 新型コロナウイルス感染症 蔓延で思うこと

新型コロナウイルス感染症が拡大し、社会生活のあらゆる分野に大きな影響を与え、日々のニュースを見るたびに目に見えない新型コロナウイルスの恐ろしさを感じています。

ここ数年、思いも寄らないところが台風や豪雨に見舞われ、自然災害への備えが必要だと思ってきました。しかし、日本のみならず世界全体で渡航制限や入国制限が行われたことは過去にはなかったと思います。

私たちは感染症予防の知識を正しく理解するとともに、一日も早く収束することを願いながら、この騒動が収束した時にすぐ動けるように、今できることに精一杯努力しなければならぬと思っています。

思えば私たちの祖先は幾多の苦境や困難な課題と遭遇しながらも、英知を結集し、力を合わせ、地域を発展させ繋いできた歴史があります。

現在の本町は、少子・高齢化とそれに伴う課題が山積しています。個人にとって最も身近な集落の維持が困難になり、原野を切り開き、発展拡大の歴史から、田畑が荒れ、家屋が崩壊し原野に戻る、減少・消滅の歴史へとなりつつあります。

このような現象を時代の流れと捉え、あきらめたり、また、過去の姿を追い求めるのではなく、この先に私たちが築く新しい時代に即した町の姿や集落の在り方を想像し、その実現のために努力することが求められているのではないのでしょうか。

(栗城康太郎)

## 7月9日オープン予定 東北電力奥会津水力館「みお里」

道の駅奥会津かねやまの西側に、新たな観光スポットが誕生します。只見川水系の電源開発に尽力した「白洲次郎」をはじめとする水力発電の歴史や仕組みなどの紹介、奥会津地域の魅力を伝えるギャラリーなどが設置されます。

※「みお里」…「みお」は水脈の意味で只見川を指し只見川の水が奥会津の豊かな暮らしを支えており「水脈のふる里」から「みお里」の愛称となりました。



完成間近の奥会津水力館

## ごあんない

次回の定例会は、6月12日ごろ開会の予定です。  
一般質問は6月15日ごろとなります。  
身近な議会を目指しておりますので、お気軽に傍聴においで下さい。  
○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り  
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕 五ノ井義一  
議長  
〔編集委員〕 黒川 廣志  
委員長 安藤 雅朗  
副委員長 坂内 謙  
委員 加藤 夕子  
次回、金山町議会だより第210号は、8月上旬ごろ発行の予定です。